

ハニーシードレス

登録番号：第3459号

登録年月日：平成5年3月17日

登録者：農林水産省果樹試験場

(茨城県つくば市藤本2-1)

来

松本亮司 金戸橋夫 小澤俊治

角 利昭 平林利郎 飯塚宗男

小崎 格 佐藤明彦

歴：「巨峰」と「トムソンシードレス」
の交雑実生

育成者：山根弘康 栗原昭夫 永田賢嗣

山田昌彦 岸 光夫 吉永勝一

特 性

■栽培特性

「巨峰」に「コンコード・シードレス」を交配して得られた交雑実生の3倍体ブドウである。樹勢は強く「ヒムロット」並で、新梢の伸びは旺盛である。樹冠の拡大は「ヒムロット」よりもやや大きい。葉の大きさは中位で「ヒムロット」並であり、葉形は五角形、葉裏の綿毛はごくわずかである。熟梢の色は暗褐色で、登熟は容易である。花芽の着生は良好で1新梢当たり2～3花穂をつける。

■果実特性

果房は有岐円筒形で、70～120gの大きさ、果粒は円形で2g程度の大きさであるが、満開3～4日後の1回のジベレリン処理(100ppm)により200～300g果房と3～5gの果粒を得ることができる。果皮色は黄緑で、果粉量は少ない方である。果皮と果肉の分離は容易で、果肉特性は崩壊性と塊状の間である。果汁の甘味は強く、屈折計示度は19～21%で酸含量は0.5%程度で食味は優れている。果皮は薄い方であるが、裂果はほとんどみられない。熟期は育成地の広島県安芸津町では8月下旬、関東地方では9月上～中旬である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

自然状態の果房は粗着房で果粒も小さいので、ジベレリン処理が不可欠であり、満開3～6日後に100ppm液の1回浸漬処理を行う。ジベレリン処理果の房づくりは上部支梗2～4段を切除し、300～350gの密着粒になるように行う。摘粒はほとんど必要としないが、はさみを少し入れて摘粒すると外観のよい房形に仕上がる。着果量はジベレリン処理時の新梢長が1m以上の強い新梢に2果房、1m以下の新梢には1果房着果させ、10a当り6,000房、収量は1,800kg程度を目標とする。結果過多になると果皮の着色が進まず屈折計示度が低く食味不良となるので注意する。また、若木時代は新梢の伸びが旺盛であるため、棚面が暗くなりやすいので、新梢、副梢管理を徹底し棚面の明るさを確保する。

成熟すると果皮の緑色の抜けが早いので、収穫は2～3回に分けて行い、適期に収穫する。

剪定はジベレリン処理を行うため、やや強めの新梢を発生させる必要がある。そのため均一な結果母枝(落葉期の新梢長200cm程度)を選定し、5～7芽に切り返し剪定を行う。また、「テラウエア」より単位面積当りの結果母枝の本数を少なめにするるとともに、主枝、亜主枝、側枝のふとこを広くとるように剪定する。

病虫害は晚腐病、うどんこ病にやや弱いので適期防除に努めるとともに、雨よけテント栽培が望ましい。露地栽培の場合は早めに袋かけを行うことが大切である。

■地域適応性

耐寒性は「巨峰」と同等かやや弱いとみられるので、冬期の最低気温が極端に下がらない東北地方中部以南のブドウ栽培地域に適する。

「テラウエア」よりジベレリン処理が1回で無核となり省力栽培が可能、一部「テラウエア」に代わって農家経営に取り入れられると考えられる。また、甘く種なしで皮ばなれがよく食べやすいため、子供や女性に人気があり、観光ブドウ園を中心に普及性があると考えられる。
(佐藤孝宣)